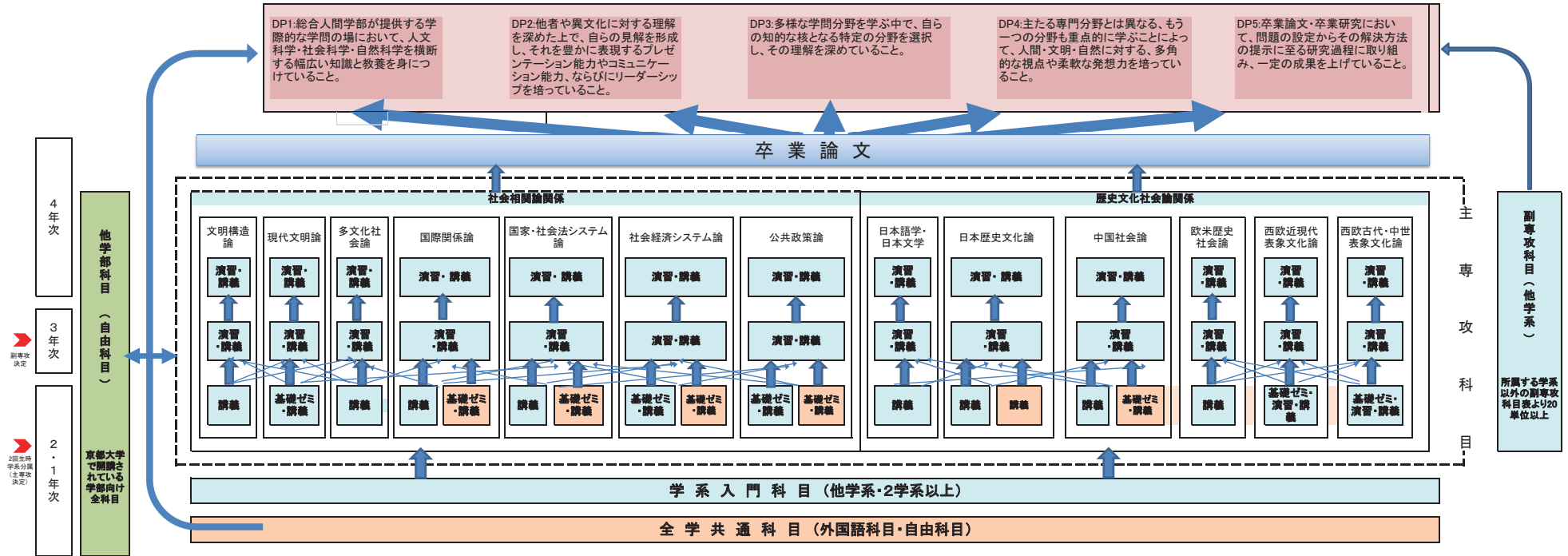


2019年度
履修モデル

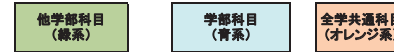
国際文明学系

総合人間学部 国際文明学系 コースツリー



※科目名の詳細は、「履修モデル」を参照

凡例:



学系	国際文明学系		
関係・分野	社会相關論 (文明構造論分野)		
教員	教授：大川 勇	教授：江田 憲治	教授：細見 和之
1回生	ヨーロッパの文学・思想に関連する全学共通科目、およびILASセミナー など	全学共通科目（東洋史）および東洋史関連のILASセミナー など	ヨーロッパの思想・哲学に関する全学共通科目、ILASセミナー など
	学部科目「国際文明学入門A」を履修すること。 外国語については、ドイツ語（大川・細見）、中国語（江田）を履修することが望ましい。		
2回生	文明構造論ⅣA・ⅣB 文明構造論ⅢA・ⅢB 文明構造論ⅡB	文明構造論ⅠA・ⅠB 文明構造論ⅡA 東アジア文化交渉論A・B	文明構造論ⅢA・ⅢB 文明構造論ⅣA・ⅣB 文明構造論ⅡB
	学部専門科目である講義科目、基礎ゼミナールも意識して履修すること。		
3回生	文明構造論演習ⅣA・ⅣB	文明構造論演習ⅠA・ⅠB	文明構造論演習ⅢA・ⅢB
	副専攻科目の計画的な履修を行ってください。		
4回生	文明構造論ⅣA・ⅣB	文明構造論ⅠA・ⅠB	文明構造論ⅢA・ⅢB
	卒業論文作成に向け、必要な知識を自主的に学修してください。テーマに関連する文学部の科目を履修することを推奨します。 なお、科目区分に於いて、取りこぼした科目の履修を忘れないこと。		
<p>国際文明学系 社会相關論 文明構造論分野の教員は、近現代のドイツ語圏（大川、細見）、近現代の中国語圏（江田）の、文化、歴史、思想をそれぞれ研究対象としています。 対象領域の言語であるドイツ語、中国語を大切に文献研究を基本としていますが、関心は専門領域に限定されていませんので、みなさんの関心を各教員に率直にぶつけてみてください。 また、文学部などの科目を積極的に履修されることも推奨します。</p>			

学系	国際文明学系
関係・分野	社会相関論 (多文化社会論)
教員	教授：土屋 由香 (アメリカ研究)
1回生	<p><全学共通科目> 英語リーディング/英語ライティング・リスニング/英語以外の外国語Ⅰ</p> <p><学部科目> 国際文明学入門A・B/国際政治論Ⅰ・Ⅱ/国際政治論基礎ゼミナール/日本国憲法/基礎演習・社会経済システム論/政治学/経済学/国際法入門</p> <p>英語や欧米圏に関する科目のみならず、人文・社会科学の様々な分野を興味関心に応じて幅広く学んでください。例えば「東洋史基礎ゼミナール」「東洋史入門」「南アジアの政治と社会」「東南アジアの政治」なども推奨します。年度によって科目名が変わる場合がありますので、特に学部外科目についてはKULASISで事前に確認してください。</p>
2回生	<p><全学共通科目> 外国文献研究-E1 /英語以外の外国語/アメリカ現代史入門</p> <p><学部科目> 多文化社会論ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB/多文化社会論演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB/文明構造論/国際関係論/現代社会論/国家・社会システム論</p> <p>人文・社会科学の様々な分野を幅広く学ぶ(例えば「東洋史」「東アジア文化交渉論」「南アジアの政治と社会」「東南アジアの政治」と同時に、多文化社会論・アメリカ研究に関するやや専門的な内容を学修してください。年度によって科目名が変わる場合がありますので、特に学部外科目についてはKULASISで事前に確認してください。</p>
3回生	<p><全学共通科目> 外国文献研究-E1 /英語以外の外国語</p> <p><学部科目> 多文化社会論演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB/国際関係論演習/文明構造論/社会経済システム論演習/現代社会論演習</p> <p>卒業研究の方向を意識しつつ、多文化社会論・アメリカ研究の分野で、より専門的な内容を学修してください。</p>
4回生	<p><学部科目> 多文化社会論演習/文明構造論演習/卒業論文</p> <p>卒業研究に向けて、必要な知識を自主的に学修してください。卒業論文テーマによって、例えば以下のような科目から必要なものを選んで履修することを勧めます。欧米歴史社会論/政治学/国際法/国際関係論/東アジア文化交渉論/東南アジアの政治/南アジアの政治と社会/科学論</p>
<p>多文化社会論は、他の様々な学問分野と関連をもつ学際的で幅広い分野ですので、欧米のことのみならず、アジアをはじめとする世界の様々な地域の歴史・政治・文化についての幅広い知識を身につけるよう意識して勉強することを勧めます。担当教員の専門はアメリカ研究ですが、特にアジアとの関係を重視し、「国際社会の中のアメリカ」を見る眼を養うことを推奨しています。ここに挙げたものはあくまでも例ですので、個別のテーマに合わせた科目履修については気軽に相談してください。</p>	

学系	国際文明学系
関係・分野	社会相関論（国際関係論分野）
教員	准教授：齋藤 嘉臣
1～2回生	<p><全学共通科目> 英語／初習外国語／国際政治論Ⅰ・Ⅱ／政治学Ⅰ・Ⅱ 経済学Ⅰ／公共政策論Ⅰ／国際法入門／法学西洋史／ 東洋史／音楽芸術論／芸術学／社会学／人文地理学／文化人類学</p> <p><学部科目> 国際文明学入門A・B／国際関係論ⅠA・ⅠB／基礎演習：国際政治論／ 国際政治論基礎ゼミナール／国際関係論（Ⅱ・Ⅳ）A／多文化社会論（Ⅰ・Ⅱ）A／ 文明構造論（Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ）A・B／国家・社会法システム論（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）A・B</p> <p>国際関係論を中心としながらも、それに限らず人文学・社会科学の多様な分野を学んでください。 例えば下記のような科目を、興味や必要に応じて履修することを推奨します。 欧米歴史社会論／西欧近現代表象文化論／日本歴史文化論／中国社会論／メディア・スタディーズ／ ヒストリー・オブ・アイデアズ／人間形成史論／創造ルネッサンス論／哲学・文化史／ 社会情報論ディア・スタディーズ／ポストコロニアル思想文化論／ユーラシア文化複合論 ／地域空間論／文化行為論／東アジア文化交渉論／東アジア比較思想論／社会人類学方法</p>
3～4回生	<p><学部科目> 国際関係論演習ⅠA・ⅠB／現代社会論演習ⅠA・ⅠB／ 社会経済システム論演習（Ⅰ・Ⅲ）A・B／公共政策論演習（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）A・B／ 文明構造論演習ⅢA・B</p> <p><1～2回生>に掲げた科目などを中心に広く履修してください。 また、卒業研究に向けて必要な知識を自主的に学修してください。</p>

学系	国際文明学系
関係・分野	社会相関論（国家社会法システム論・法学分野）
教員	教授：小畑 史子（労働法） 教授：那須 耕介（法哲学・政治理論） 准教授：見平 典（憲法・司法政治）
1回生	<p><全学共通科目> 法学／日本国憲法／労働と法／思想と法／統治機構論／政治学Ⅰ・Ⅱ／基礎演習：労働と法／基礎演習：法哲学／労働と法基礎ゼミナール／法哲学基礎ゼミナール <学部科目> 国際文明学入門A・B</p> <p>法学系科目だけに限定することなく、社会科学、人文学系の科目を幅広く受講してください。他の開講科目についてはKULASISその他の情報を適宜参照してください。</p>
2回生	<p><学部科目> 国家・社会法システム論ⅠB・ⅡA・ⅡB／国際関係論ⅠA・ⅠB／社会経済システム論ⅠA・ⅠB・ⅢA／文明構造論ⅢA・ⅢB／国際関係論ⅠA・ⅠB／多文化社会論ⅠB／公共政策論Ⅰ・Ⅱ</p> <p>社会科学（特に政治学、経済学、公共政策学、社会学など）を広く学ぶとともに、全科目・学部科目ともに法学系の発展的科目を受講して、より専門的な問題関心を深めてください。</p>
3回生	<p><学部科目> 国家・社会法システム論ⅠB・ⅡA・ⅡB／国際関係論ⅠA・ⅠB／社会経済システム論ⅠA・ⅠB・ⅢA／文明構造論ⅢA・ⅢB／国際関係論ⅠA・ⅠB／多文化社会論ⅠB／公共政策論Ⅰ・Ⅱ／国家・社会法システム論演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB／卒業論文（指導）</p> <p>卒業研究で取り組む具体的な課題・主題を探求し、特定するための大事な時期です。学部開講の講義科目はもちろんのこと、演習科目も積極的に受講して、これならと思えるテーマを探り当ててください。</p>
4回生	<p><学部科目> 国家・社会法システム論演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB／卒業論文（指導）</p> <p>講義・演習への出席を通じて自分の関心に即した専門的な知見を深めるとともに、卒業論文の執筆に取り組む時期です。なるべく早いうちから指導教員と相談しながら、学部での学習過程の仕上げに専念してください。</p>
<p>入学当初から法学に関心をもって総合人間学部に入ってくる人はまれかもしれませんが、主な隣接分野（政治学、公共政策学、経済学、歴史学、倫理学、社会学）を学ぶ上でも、法学はしばしば避けて通れない領域を形作っています。また、国内外の具体的な社会問題を考える際にも、法学的な知見はたいへん大きな力になってくれるはずです。自分の関心に独自の角度から接近するためにも、法学上の知識と技法を思考の道具箱の一つに加えてみてはどうでしょうか。教員の専門分野はそれぞれ分かっていますが、まずは自分の興味関心が法学とどう関わってくるのか、気軽に相談してみてください。思わぬ視野が開けるかもしれません。</p>	

学系	国際文明学系
関係・分野	社会相関論（現代社会論分野）
教員	教授：大黒 弘慈（経済原論／経済思想） 准教授：柴山 桂太（マクロ経済学／経済思想）
1回生	<p>〈全学共通科目〉 経済学Ⅰ・Ⅱ／現代の経済学Ⅰ・Ⅱ／現代経済社会論Ⅰ・Ⅱ／基礎演習：経済思想／経済原論基礎ゼミナール 〈学部科目〉 国際文明学入門A・B／社会経済システム論ⅠA・ⅠB</p> <hr/> <p>経済学に限らず、人文科学、社会科学の様々な分野を幅広く学んでください。</p>
2回生	<p>〈全学共通科目〉 現代経済文明論ⅠA・ⅠB 〈学部科目〉 社会経済システム論ⅢA・ⅢB／社会統計学実習A・B／比較経営組織論A・B／国際関係論ⅣA・ⅣB／現代社会論ⅠA・ⅠB／現代社会論ⅡA・ⅡB</p> <hr/> <p>社会科学を幅広く学ぶとともに、経済学の発展的な科目を履修することを推奨します。</p>
3回生	<p>〈学部科目〉 社会経済システム論ⅠA・ⅠB／社会経済システム論ⅢA・ⅢB／現代社会論演習ⅡA・ⅡB／社会統計学実習B・A／比較経営組織論B・A／国際関係論ⅣB・ⅣA</p> <hr/> <p>卒業研究の方向性を意識しつつ、経済学のより専門的な内容を学修してください。</p>
4回生	<p>〈学部科目〉 社会経済システム論ⅢA・ⅢB／社会経済システム論ⅠA・ⅠB／現代社会論演習ⅠA・ⅠB</p> <hr/> <p>卒業研究に向けて、必要な知識を自主的に学修してください。</p>
<p>経済学の基礎的素養を身につけることはもちろん大切ですが、同時に経済学的思考法を相対化する目を養うことを忘れないでください。そのために人文科学・社会科学を幅広く学修してください。</p>	

学系	国際文明学系
関係・分野	社会相関論（公共政策論分野）
教員	教授：浅野 耕太（経済学）、佐野 亘（政治学）
1～2回生	<p><全学共通科目> 政治学Ⅰ／政治学Ⅱ／経済学Ⅰ／経済学Ⅱ／法学／環境と法／思想と法／統計リテラシー／公共政策論基礎ゼミナールⅠ／環境経済・政策論基礎ゼミナール、など</p> <p><学部科目> 公共政策論Ⅰ／公共政策論Ⅱ／国際関係論ⅠA／国際関係論ⅠB／社会経済システム論ⅠA／社会経済システム論ⅠB／国家社会法システム論ⅠA／公共政策論基礎ゼミナールⅡB、など</p>
	<p>ひろく社会科学に関する基礎的な知識を身につけることで、どのような方法論やアプローチにもとづいて公共政策に関わる問題について考察・分析をおこなうのか、考えられるようになることを目指す。</p>
3～4回生	<p><学部科目> 公共政策論演習ⅠA・ⅠB／公共政策論演習ⅡA・ⅡB／公共政策論演習ⅢA・ⅢB／社会相関論の諸科目</p>
	<p>1，2回生に引き続き、ひろく社会科学に関する諸科目を履修するとともに、公共政策に関する演習に参加し、より専門的な知識や分析手法を身につけることにより、卒業論文の完成を目指す。</p>
<p>卒業論文を書くにあたっては、できれば、複数の演習に参加し、複数の先生にアドバイスをもらうことが望ましい。公共政策はさまざまな学問領域に関係するからである。積極的に学ぶ意欲さえあれば、総合人間学部ならでの、他の学部ではできないような研究をおこなうことが可能です。</p>	

学系	国際文明
関係・分野	歴史文化社会論（歴史社会論分野）
教員	教授：元木 泰雄、合田 昌史 准教授：吉江 崇
1回生	<p>歴史社会教員担当の全学共通科目 日本史Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）（以下、前期・後期省略）、西洋史Ⅰ・Ⅱ、Western HistoryⅠ・Ⅱなど 歴史社会論教員担当の基礎演習・基礎ゼミナール科目：日本古代・中世政治文化論Ⅱ、基礎演習：近世西洋史学、基礎演習：Contemporary History（以上、ILAS科目と同一科目）日本古代・中世政治文化論基礎ゼミナールⅠ・Ⅱなど 歴史文化社会論一回生履修可能科目</p> <p>歴史社会論（または歴史文化社会論・国際文明学系）の教員が担当する全学共通科目のほか、人文・社会科学科目、自然科学科目などから幅広く学識を身につける。1回生から学部科目に出席することができる。学系入門科目、外国語をもらさず履修しておく。</p>
2回生	<p>歴史文化社会論2回生履修可能科目 欧米歴史社会論ⅠA・B・ⅡA・B（以下A・B省略）、学部特殊講義Ⅲ（以上、歴史社会論）、全学共通科目日本史関係各論、日本語学・日本文学Ⅰ～Ⅳ、書論・書写演習A・B、日本古典講読論Ⅰ・Ⅱ、日本語学文献講読論Ⅰ・Ⅱ、西欧近代表象文化論Ⅰ～Ⅳ、西欧古代・中世表象文化論Ⅰ・ⅢBなど</p> <p>歴史社会論2回生履修可能科目を履修し、専門的な研究にふれる。副専攻科目の履修に取り掛かる。</p>
3回生	<p>歴史社会論日本史系科目 日本歴史社会論Ⅰ・Ⅱ、日本歴史社会論演習Ⅰ・Ⅱ 歴史社会論欧米系科目 欧米歴史社会論Ⅰ・Ⅱ、欧米歴史社会論演習Ⅱ 他学部の授業も適宜履修する。</p> <p>卒業論文の内容と、それに伴う指導教員の選択を念頭に、欧米系か、日本系かのどちらかに重点をおいて履修する。あわせて、歴史文化社会論（または国際文明学系）から幅広く履修する。</p>
4回生	<p>歴史社会論日本史系科目 日本歴史社会論Ⅰ・Ⅱ、日本歴史社会論演習Ⅰ・Ⅱ 歴史社会論欧米系科目 欧米歴史社会論Ⅰ・Ⅱ、欧米歴史社会論演習Ⅱ 他学部の授業も適宜履修する。</p> <p>指導教員と相談の上、卒業論文のテーマを決め、それに適した授業を履修する。</p>
<p>最終的には、歴史学の知識・方法論を体得し、優れた卒業論文の作成を目指す。同時に、総合人間学部の特徴を生かし、歴史学だけでなく、幅広い学問に接することで、独自のテーマや、分析視角を見つけてほしい。迷うこと、わからないことがあれば、ためらわずに教員に声をかけてもらいたい。</p>	

学系	国際文明学系
関係・分野	歴史文化社会論 (東アジア文化論分野)
教員	<p>〈日本語学・日本文学〉教授：須田 千里(日本近代文学)、准教授：佐野 宏(日本語学・上代文学)、准教授：長谷川 千尋(日本古典文学)</p> <p>〈中国語学・中国文学〉教授：道坂 昭廣(中国文学)、准教授：松江 崇(中国語学)</p> <p>〈中国史〉教授：辻 正博(古代～近世)</p>
1回生	<p>〈全学共通科目〉： 日本語学・日本文学：国語国文学Ⅰ・同Ⅱ／言学Ⅰ・同Ⅱ／日本近代文学Ⅰ・同Ⅱ／日本近代文学基礎ゼミナール 中国語学・中国文学：漢文学Ⅰ・同Ⅱ 中国史：東洋史Ⅰ・同Ⅱ／東洋史基礎ゼミナールⅠ</p> <p>〈学部科目〉： 日本語学・日本文学：基礎演習 日本近代文学 中国語学・中国文学：中国文字文化論／中国書誌論／中国古典講読論A・B 中国史：基礎演習 中国史の基礎資料</p> <p>東アジア文化論・歴史文化社会論・国際文明学系の教員が担当する全学共通科目の他、人文・社会・自然科学系の科目を幅広く履修することをお勧めします。 2回生進級時に主専攻学系への分属が決まりますので、入門科目などを通じて各学系の特色を知り、希望する学系を絞り込んでゆきましょう(10月下旬ごろに分属説明会があります)。 1回生から履修できる学部科目もあります。</p>
2回生	<p>〈学部科目〉： 日本語学・日本文学：日本語学・日本文学ⅠA・B／同ⅡA・B／同ⅢA・B／日本語学文献講読論Ⅰ・Ⅱ／日本古典講読論Ⅰ・Ⅱ／書論・書写演習A・B 中国史：中国社会論ⅠA・B／同ⅡA・B ※このほか、上記1・2回生の科目で取り残したものがあれば履修して下さい。</p> <p>2回生で主専攻学系への分属が決定します。学部講義科目の履修を通じて、専門的な学問の世界を体験しましょう。 東アジア文化論関係の講義科目は2回生から履修が可能です。同時に、副専攻をどれにするかを考えて科目を履修し、ものごとを複眼的に見る力を身につけましょう。 外国語科目はこの時期にきちんと履修しておきましょう。教員アドバイザーに勉学等の相談に乗ってもらってもできますよ。</p>
3回生	<p>〈学部科目〉： 日本語学・日本文学：日本語学・日本文学演習ⅠA・B／同ⅡA・B／同ⅢA・B 中国語学・中国文学：中国文化論演習ⅡA・B 中国史：中国社会論演習ⅠA・B ※上記1・2回生の科目で取り残したものがあれば履修して下さい。 このほか、下記のような文学部科目を興味や必要に応じて履修することを推奨します。また、下記のような文学部科目を興味や必要に応じて履修することを推奨します。 系共通科目(国語学)(講義)／系共通科目(国文学)(講義)／国語学国文学(講読)／系共通科目(中国文学)(講義)／系共通科目(中国語学)(講義)／中国語学中国文学(講読)／系共通科目(東洋史学)(講義)／東洋史学(講読) など 国語学国文学(特殊講義)／国語学国文学(演習)／中国語学中国文学(特殊講義)／中国語学中国文学(演習)／東洋史学(特殊講義)／東洋史学(演習) など</p> <p>東アジア文化論のどのジャンルで卒論を書くか、だれを指導教員に選ぶかを念頭に置いて、関係する学部科目(歴史文化社会論関係、社会相関論関係を含む)を履修します。演習科目もしっかり履修し、文献の読解力を身につけましょう。</p>
4回生	<p>指導教員と相談の上、上記1～3回生の科目で取り残したものがあれば履修して下さい。</p> <p>卒業論文執筆の指導教員を決め、卒論のテーマを決めます。テーマに関連した授業を中心に履修します。将来どのような分野に進んでも、卒論執筆は心に残るできごとです。4年間の勉学の成果を試す意味で、思う存分に書いてみましょう。</p>

学系	国際文明学系
関係・分野	歴史文化社会論 (西欧文化論分野)
教員	教授：桂山 康司、水野 眞理 准教授：池田 寛子
1回生	<p><全学共通科目> ILASセミナー E2 / 西洋史I / 近世西洋史学 <総合人間学部科目> 国際文明学入門A・B / 英米文学入門(基礎ゼミナール扱い) / 文化環境学入門A・B(副) / ポストコロニアル思想文化論基礎ゼミナール(副)</p> <p>全学共通科目では、フランス語やドイツ語のような西欧の文化を知るのに重要な語学を学習しておきましょう。ILASセミナーのE2(英語による授業)にも挑戦して語学のセンスをみがきましょう。ILASセミナー・イギリス詩入門(少人数・抽選あり)もお勧め。総合人間科目では、1, 2回生において文化論の基礎を固めることを勧めます。</p>
2回生	<p><全学共通科目> 外国文献研究 E1 / E2 / 西洋史II <総合人間学部科目> 英米文学入門(基礎ゼミナール扱い) / 西欧近現代表象文化論 IA / 西欧近現代表象文化論III A・III B / 西欧古代・中世表象文化論 IA・IB / 西欧近現代表象文化論演習III B / 欧米歴史社会論 IA・IB ポストコロニアル思想文化論AまたはB(副) / 東アジア文化交渉論A(副) ポストコロニアル思想文化論演習A・B(副)</p> <p>全学共通科目では、初修外国語は、継続して学習する工夫を各自であることを勧めます。関心に応じてイタリア語、ラテン語、ギリシャ語などに挑戦することもよいでしょう。英語(E科目)やILASセミナーでも、興味を引く内容の授業を探索してください。総合人間科目では、人間科学系創造行為論関係や文芸表象論関係科目などの授業も積極的に受講することを勧めます。 1回生時に英米文学入門を受講していない人は2回生で受講してください(重複履修はできません。)</p>
3回生	<p><総合人間学部科目> 西欧近現代表象文化論 II A / 西欧近現代表象文化論IV B 西欧近現代表象文化論演習 II A・B / 西欧近現代表象文化論演習IV A・B 欧米歴史社会論 IA・B / 多文化社会論 IA 東アジア比較思想論AまたはB(副) / 東アジア文化交渉論B(副) / 東アジア比較思想論演習A・B(副)</p> <p>初修外国語および英語は、継続して学習する工夫を各自であることを勧めます。卒業論文のテーマについて、指導教員と話し合いながらおおまかな道筋を考え、それに向けて文献を収集したり、予備的な調査をしておきます。</p>
4回生	<p><総合人間学部科目> 西欧近現代表象文化論 IA(重) / 西欧近現代表象文化論IV B 西欧近現代表象文化論 II A(重) / 西欧近現代表象文化論III B(重)</p> <p>指導教員と頻りに面談しながら、卒業論文を作成します。夏休み明けに中間発表を行い、年内に形をつけ、一月に完成稿を仕上げます。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・西欧文化と一言でいってもその実体は多様であり、時代、地域、扱うジャンル、などによってもアプローチを変えていかなければなりません。ただし、西欧語圏のテキストを資料として扱う、という点は共通しているので、語学の力は必須です。 ・本関係と親和性の高い、他の学系や分野の授業も積極的に受講することを勧めます。例えば文芸表象論関係科目である英米文芸表象論(講義・演習)など。 ・副専攻として比較文明論を例としていますが、この部分は自由に考えてください。副専攻届の提出は3回生の10月ですが、早めから計画を立て、できれば1回生から履修してください。 ・3回生の後半から4回生で卒業論文執筆、大学院入試準備、就職活動などのための時間を確保できるよう、1, 2回生、3回生前半でなるべく多くの単位を揃えるようにしましょう。 ・分属の前後に関わらず、分野の教員に遠慮なく相談してください。 ・表中の(副)は副専攻科目、(重)は重複履修を指します。